

# 気仙沼・本吉エリア

気仙沼市・南三陸町



地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)



安波山から眺めた2年目の町並み(気仙沼市)

気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町で構成されています。死者・行方不明者数は県全体の2割を超え、全半壊の住家被害のあった14,000棟以上のうち、8割以上が全壊となる壊滅的な被害を受けました。

平成24年度は、住民との意見交換や用地確保など、本格的なまちづくりに着手するために必要な取り組みを進め、3年目となる平成25年度は、復興まちづくりの進捗がより実感できるような一年となることを目指しています。また、市街地などを埋め尽くしていた膨大な震災廃棄物は、処理施設への搬入が進み、焼却炉が本格的に稼働。震災で大きな被害を受けた鉄道に代わる地域住民の交通手段として、バス高速輸送システム(BRT)の本格運行も始まりました。

一方で、東日本大震災が引き起こした広範囲の地盤沈下への対応など、まだまだ多くの課題を抱えています。



志津川小学校から眺めた2年目の町並み(南三陸町)



災害廃棄物処理に向けて本格稼働した焼却炉(気仙沼市)

## 気仙沼・本吉エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	1,823人	10,427人
行方不明者	456人	1,302人
全壊	11,626棟	85,259棟
半壊	2,747棟	152,875棟

(平成25年2月28日現在)

## 応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	14,094人	13,502人
民間賃貸借上住宅	6,085人	4,028人
計	20,179人	17,530人

(平成25年3月1日現在)



地盤沈下の様子(気仙沼市)

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>

2012年6月7日 木曜日

## 本日気仙沼の港は大忙しです

(気仙沼市)



この日の水揚げの目玉はピンナガマグロ。気仙沼から、海の恵みの便りです。

2012年7月2日 月曜日

## サンマ新船！進水！

(気仙沼市浪板)



梅雨の最中の蒸し暑いある日、気仙沼港で1隻のサンマ漁船の進水を告げるファンファーレが鳴り響きました。水産都市気仙沼の鼓動がさらに大きくなりました。

2012年10月24日 水曜日

## オクトパス君で合格祈願！

(南三陸町入谷)



オクトパス君スマホスタンド

「置くと試験にパス」する縁起物として誕生したオクトパス君に、新商品が登場。「南三陸復興ダコの会」では間伐材や津波被害木を材料にした新しいオクトパス君グッズの製作が行われていました。

2012年8月11日 土曜日

## 復活！2年ぶりの気仙沼みなとまつり！

(気仙沼市)



運を運ねることを意味する「海上うんづら」

気仙沼の夏の風物詩「気仙沼みなとまつり」が2年ぶりに復活しました。運を運ねる「海上うんづら」の祭りばやし、そして2500発の花火には、鎮魂と復興の願いが込められています。

2012年8月20日 月曜日

## 住民の生活の足 BRT 運行開始です。

(気仙沼市、南三陸町)



東日本大震災で大きな被害を受けて運休中だったJR気仙沼線。2012年8月20日、一部の高校で新学期が始まるこの日に、柳津～気仙沼間の53.3kmでバス高速輸送システム(BRT)の暫定運行が始まりました。

2012年9月27日 木曜日

## 笑顔は人生の花である～気仙沼の造船所の復旧

(気仙沼市大浦)



日本の漁業を支えている造船業。震災で大きな被害を受けた気仙沼の造船所の復旧状況についてお聞きしました。「笑顔は人生の花である」とは島山貢社長の大好きな言葉だそうです。

2012年11月4日 日曜日

## 未来永劫

(気仙沼市鹿折)

2012年7月、大津波と津波火災で大きな被害を受けた気仙沼市鹿折地区に、地元の水産加工会社17社が協同して気仙沼鹿折加工協同組合を設立しました。震災で途切れた取引を回復させ、組合が作る商品を少しでも多く売り、日本に通用するブランド品に育てたいと夢を語ってくれました。



理事長の川村賢寿さんと副理事長の臼井弘さん

2012年10月7日 日曜日

## 船神輿で海上安全と復興祈願

(気仙沼市唐桑町)



10月7日、気仙沼市唐桑町の早馬神社の例祭神幸船祭で神輿渡御が行われました。宿打囃子獅子舞保存会の奉納太鼓が響く中、神輿は担ぎ手の「せいや、せいや」の掛け声とともに神社を出発。町内の仮設住宅などを回った後、御崎沖まで渡御して海上安全と豊漁を祈りました。

2013年1月11日 金曜日

## 16年連続生鮮カツオ水揚げ日本一！

(気仙沼市)



津波と地盤沈下などにより大きな被害を受けた気仙沼市魚市場と漁港周辺の水産加工施設。水産業に関わる人たちの努力で復興に向けて歩みを進め、2012年も生鮮カツオ水揚げ数量19,760トンで16年連続日本一になりました。

2012年8月3日 金曜日

### 漁師町の「粋」を世界に

(気仙沼市唐桑町)



大漁旗にちなんだ「タイ」「日の出」「恵比寿」の絵柄。帆布で作られたバッグのポケットは、大漁はんてんのデザイン。女性3人が手作りして販売を始めた作品は、1つ1つが細やかな心遣いで作られ、漁師町の「粋」も備えていて、とっても素敵です。今では仙台だけでなくスイスでも売られるインターナショナルな作品です。

2012年7月29日 日曜日

### 気仙沼市早稲谷鹿踊り

(気仙沼市早稲谷)



地域で亡くなった方・諸霊と鹿踊りを継承した先人、そして東日本大震災の物故者の冥福を祈り、宮城県無形民俗文化財「早稲谷鹿踊り」が奉納されました。

地域で亡くなった方・諸霊と鹿踊りを継承した先人、そして東日本大震災の物故者の冥福を祈り、宮城県無形民俗文化財「早稲谷鹿踊り」が奉納されました。

2013年2月17日 日曜日

### 天高く！希望の天旗(てんぱた)を揚げました

(気仙沼市)

2年ぶりに気仙沼市の冬の風物詩「天旗まつり」がたくさんの方々の努力で復活しました。多くの市民が空を見上げ大空を舞うたこに歓声を上げていました。



2012年10月8日 月曜日

### 気仙沼から世界に向けて

(気仙沼市柏崎)



10月8日体育の日に開催された、気仙沼・復興再生プロジェクト「kesenuma,Smiles。」各界で活躍する若者らのトークショーやドキュメンタリードラマが上映されました。主催した阿部長商店社長の阿部泰浩さんは、「これからの復興への強い思いと気仙沼の人たちのひたむきさを笑顔で発信していきたい。たくさんの方々の支援と気仙沼で会えた多くの皆さんに感謝している」と話していました。

2012年11月23日 金曜日

### 仮設団地の感謝祭

(南三陸町志津川)



志津川中学校仮設団地の感謝祭。団地に住む人をはじめ、県外から応援で参加している人たちもみんな笑顔！ 風は冷たい1日でしたが気持ちがとても温くなりました。震災は悲しい出来事でしたが「人」と「人」の繋がり、「心」と「心」の繋がりをつくったことを強く感じた1日になりました。



神戸から参加されたボランティアの皆さん

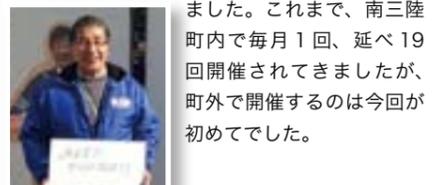
2012年11月16日 金曜日

### 南三陸町の福興市が仙台にて初開催！

(南三陸町、仙台市)



南三陸町の福興市は、震災後間もない2011年4月29日、津波により町の中心部が流失し、品物も場所もなくなった中、周辺地域などからの支援をいただきながら、手探りで始まったイベントです。その復興市が、仙台市でも開催されました。これまで、南三陸町内で毎月1回、延べ19回開催されてきましたが、町外で開催するのは今回が初めてでした。



実行委員長の山内正文さん

2012年11月14日 水曜日

### 小学校を使ってコミュニティ再生

(南三陸町歌津)



大震災でバラバラになってしまった地域の人が集まれる場所として2012年6月から南三陸町立伊里前小学校を会場に開かれてきた「たつがね学校」。最終回の11月14日は、南三陸町の語り部仲松敏子さんによる「ふるさと南三陸の民話をしよう」でした。



語り部の仲松敏子さん

2012年11月12日 月曜日

### 使命を一生懸命に生きる

(気仙沼市本吉町)

「生命」「使命」「一生懸命」。その3つの命を生きることが大切だと思いませんか？そしていつも笑顔でね。オイカワデニムの及川秀子社長は、発災から約4ヶ月間、高台にある工場を提供し、避難した地域の人たちと協力して避難所を運営しました。



2012年11月28日 水曜日

### みんなの笑顔も創っています。

(南三陸町戸倉)

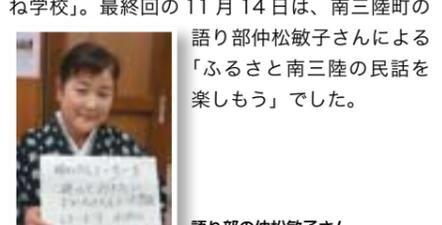
南三陸町水戸辺地区で仮設住宅に住みながら、素敵なお茶を製作販売している女性たち。「集まってお茶を飲むだけでは進歩がないから」と、ボランティアの協力も受けながら編み物や縫い物に笑顔で励んでいました。



2012年11月18日 日曜日

### 唐桑産カキ復活！

(気仙沼市唐桑町)



第27回リアス牡蠣まつり唐桑「復興感謝祭」。販売開始1時間以上前から唐桑産のカキを求め人が長蛇の列を作りました。会場には、唐桑産カキの復興を支援してくれたライバルの広島県のカキ養殖関係者の姿も見られました。



2013年1月6日 日曜日

### 南三陸町の笑顔が集う広場に

(南三陸町志津川)



町の人たちが集まり催し物を開くことのできる会場が津波で失われていた南三陸町。このほど、250人を収容できる音響設備付き大ホールなどを備えた「南三陸プラザ」がオープンしました。



2012年8月18日 土曜日

### 映画「ガレキとラジオ」

(南三陸町)



南三陸町で放送していた期間限定のラジオ局、「FMみなさん」の活動を追いかけたドキュメンタリー映画「ガレキとラジオ」の完成披露試写会。今まさに、この地域が抱えている問題を映し出すスクリーンに、涙を止めることができませんでした。

2012年9月24日 月曜日

### 大津波到達点 子々孫々語り継ぐ

(気仙沼市唐桑町)

「東日本大震災復興祈願碑」が気仙沼市唐桑町宿浦の早馬神社に建立されました。その碑には、「復興祈願」と「後世へ津波を語り継ぐ」との思いが込められています。



建立された「東日本大震災復興祈願碑」

2013年1月13日 日曜日

### 復興を担う若い力

(気仙沼市)



2013年の気仙沼市成人式。会場の気仙沼市市民会館には開式前から新成人が集まってにぎやかでした。会場には笑顔があふれ、友達との再会を抱き合っている姿や携帯電話片手に友達を探している様子が見られました。たくさんの若者が夢や希望をかなえることで、復興の力になっていくことを祈っています。

2012年9月7日 金曜日

### 気仙沼の歴史と文化の発信基地一部再開！

(気仙沼市赤岩牧沢)



7月末に東日本大震災から約1年5ヵ月ぶりに再開した「リアス・アーク美術館」の最初の企画は「津波展」。震災前に開催した明治三陸大津波の記録展に、この震災で学芸員が撮影し集めた貴重な記録写真を新たに加えて、次世代に教訓を語り伝えています。



学芸員の山内宏泰さん

2012年10月25日 木曜日

### 「みちびき地蔵」、お堂再建

(気仙沼市大島)

の再建に向けて全国に資金面などの支援を呼びかけました。遠く京都の方々からの応援もあって、10月25日に再建・落成。緑の真珠・気仙沼市大島の、新たな観光スポットとして期待されています。



東日本大震災の津波で全壊した「みちびき地蔵」の地蔵堂。気仙沼大島観光協会はこの「みちびき地蔵」を復興のシンボルとして再建しようと2011年9月に絵本を発行し、地蔵堂

2012年10月25日 木曜日

### 「みちびき地蔵」、お堂再建

(気仙沼市大島)

の再建に向けて全国に資金面などの支援を呼びかけました。遠く京都の方々からの応援もあって、10月25日に再建・落成。緑の真珠・気仙沼市大島の、新たな観光スポットとして期待されています。

気仙沼大島観光協会の菅原聖月さん

2012年11月4日 日曜日

### 気仙沼の美味しいものが集まりました。

(気仙沼市本吉町)



同時開催された「第28回気仙沼・本吉地方産業まつり」と「気仙沼市本吉産業まつり2012」。会場は、たくさんの方々の笑顔と再会を喜ぶ声、気仙沼の美味しいものの香りでいっぱいでした。復興への歩みが確実に進んでいることを感じられました。



2013年1月15日 火曜日

### 子どもが希望に育つまち南三陸町へ

(南三陸町)



「未来を担う子どもたちが学びをあきらめない環境を大切にしたいです。」「南三陸ホテル観洋」の女将阿部憲子さんは、震災の直後から経営するホテルを2次避難所として提供し運営するなど、南三陸町を見つめてきた1人です。今、子どもたちの学習環境の整備に取り組んでいます。



2012年12月14日 金曜日

### 住民の安全と安心のために

(気仙沼市唐桑町)

自分の安全は自分で守る。93世帯が入居している気仙沼市唐桑町「福祉の里住宅」では、2012年7月、親睦会の役員15人と地元の警察、消防、行政などの関係機関が協力して、福祉の里住宅「防犯・防災・交通安全見回隊」を発足させました。



親睦会会長の坪内正一さん

2012年12月22日 土曜日

### 唐桑の海と共に生きる

(気仙沼市唐桑町)

震災から立ち上がった唐桑のブランドカキを、海を見ながら食べることができる施設「復興かき小屋唐桑番屋」。店長の清水千春さんは静岡県富士市出身で、潜水ボランティアとして仲間と唐桑町に通い続けるうちに、ついにここへ移住しました。



地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)

地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)